

CSO ネットワーク連続セミナー「バリューチェーンを通して持続可能な社会を考える」

【第1回セミナー報告】

CSO ネットワークは、この夏、生産から流通、販売、消費までを含む経済活動全般(バリューチェーン)を持続的(サステナブル)なものに変えていくために、何が必要なのかを考える連続セミナーを行っています。この3回の連続セミナーでは、バリューチェーンにおける、労働・人権、環境、持続可能な消費をテーマにそれぞれの分野でご活躍されている講師をお招きして、現場の話を中心に、持続可能な社会のために何が 필요한のかを問題提起していただいています。

*ここでの“バリューチェーン”は、本年12月発行予定の国際的な社会的責任ガイダンス文書「ISO 26000」の定義に基づき“製品またはサービスの形での価値の提供又は受け取りおよびその関係者の全体”を意味します。

【第1回セミナー】

去る8月3日に第1回セミナー「サステナブルな調達～途上国における労働・人権について」を開催しました。講師には、特定非営利活動法人 ACE の代表 岩附 由香さんと国際労働財団 副事務長 熊谷 謙一さんをお招きしました。前半は講師のお二人からそれぞれお話をいただきました。

「児童労働ゼロのバリューチェーンを目指して」 (特活)ACE 代表 岩附由香さん

児童労働とは、子ども(18歳未満)の健康的な成長を妨げる、法律に違反した労働(お手伝いや、学校に通いながらのアルバイトで合法的なものも含まない)。世界の児童労働者は2億1500万人(国際労働機関 ILO 2010)で世界の子どもの7人に1人に相当する。全体的には減少傾向にあるも、そのスピードは落ちている。

企業が児童労働問題に取り組む理由として以下の3つが考えられる。

- グローバル化と企業の社会的責任(CSR)
- サプライチェーンのリスク管理と国際基準
- 子どもの未来と持続可能性への貢献

2010年12月に発行予定の ISO26000(社会的責任のガイダンス文書)の中でも児童労働は、人権に関する課題として重要視されている。児童労働は、原料生産～原料取引～加工・製造～流通～販売～消費～分解・再利用までのバリューチェーンのさまざまな場面で発生している。その中でも特に原料生産における児童労働の問題は深刻である。

日本企業においてもサプライチェーンにおける CSR は重要度が増しているが、その取り組みは業種によって、あるいは最終消費者との距離感、環境・安全面でのリスク、取引先との関係などによっても異なる。サプライチェーンの CSR の課題としては、ステークホルダーとのコミュニケーションやマネジメントシステムの構築などがあげられる。

最近の傾向としては、認証制度の諸課題と原料調達における課題がある。

近年、フェアトレードやレインフォレスト・アライアンス、オーガニックなどに認証のついた原材料を愛好し調達する企業が増えている。しかし、制度の問題としては、透明性と第三者性が問われている。また現場においては、児童労働に対する住民の理解が得られるのか、認証で何が約束されるのか、オーガニック化による労働負担はどうするのか、などさまざまな課題がある。企業としては、認証ラベルがついていれば全て OK、もうその部分は考えなくても良い、となると、現場で起きている問題がますます見えなくなる。

原料調達における課題に取り組むために、ACE は国際協力 NGO のハンガーフリーワールドとともにジーン

ズメーカーの Lee の『BORN in UGANDA ORGANIC COTTON PROJECT』に参加しており、Uganda Organic Jeans のサプライチェーンのコットン調達現場で児童労働がないかの CSR レビューを実施するとともに同社に対しコンサルティングも行っている。

その他の今後の課題としては、レイバー・フットプリントをどう計るか。資源からリサイクルまで、そこに関わる人々の労働条件をどのように把握し、管理するか。またリスクとコストのバランスをどうとるか。事業・経営戦略と CSR 戦略の融合をどのように行うか、途上国の労働力供給の変化(中国など)にどう対応するか、などがあると思う。

「ISO26000 とアジアの企業と労働」 国際労働財団 副事務長 熊谷謙一さん

本年 12 月に ISO26000 (社会的責任のガイダンス文書) が発行予定である。これは 1990 年代から始まった CSR の国際規格の集大成ともいえるものである。ISO26000 の策定は、ISO 消費者政策委員会の問題提起から約 10 年、諮問委員会による規格策定の提起から約 7 年、作業部会による規格策定から約 5 年かかった。(これは小惑星探検機「はやぶさ」の打ち上げから帰還までとほぼ同じ期間!) この規格の推進力は NGO であり、起草委員会には、途上国、先進国から合わせて 24 名、日本から熊谷さんなどが入った。ISO26000 の国内委員会は経産省の管轄であり、政府、産業、労働、消費者、NGO、SSRO の 6 つのステークホルダーの委員で構成されている。

規格の対象は全ての組織であり、「社会的責任」の定義は「組織の活動が社会と環境に与える影響についての責任」などである。社会的責任には以下の 7 つの原則があり、各論として 7 つの中核主題がある。そして中核主題の中に具体的なテーマ(課題)が論じられている。

【7 原則】①説明責任②透明性③倫理的行動④社会的責任の認識およびステークホルダー参画⑤法の尊重⑥国際規範の尊重⑦人権の尊重

【7 つの中核主題】①組織のガバナンス②人権③労働慣行④環境⑤公正な事業慣行⑥消費者課題⑦コミュニティ参画および発展(全てに関連する課題として、経済的側面、健康と安全、バリューチェーン、ジェンダーがある。)

バリューチェーンは全体にかかわる重要なテーマであるが、とくに「バリューチェーンにおける社会的責任の推進」として⑤の公正な事業慣行の中に位置づけられ、6 つの推進すべき課題が挙げられている。やや抽象的であるので誰もが使えるようわかりやすくすることが課題であろう。

ISO26000 の特徴は、ステークホルダーの重視、持続可能な開発を目標としたこと、すべての組織への適用、マネジメントシステムではない「ガイダンス規格」の具体化、影響力の範囲(バリューチェーン、サプライチェーン)への適用、などが挙げられる。12 月頃に発行後は、2013 年に最初の見直しをおこない、その後 5 年毎に見直す予定である。国内での規格化が今後の課題であり、現在で検討中である。

ISO26000 の中では、組織の川上、川下につながる製品やサービスのチェーンは「バリューチェーン」を使うことになった。「サプライチェーン」はバリューチェーンの上流として定義されている。また、組織が経済的、社会的なつながりや影響力をもつ範囲のことを、「影響力の範囲」と定義し、ISO26000 の規格の対象(適用の範囲)とした。影響力の範囲を定めるために、組織は自らの活動や関係先の活動によってもたらされるマイナスの影響を特定し、対処するためのプロセスを行う必要があり、これをデューデリジェンスと呼ぶ。

これら「影響力の範囲」や「デューデリジェンス」の概念は、国連事務総長特別代表ジョン・ラギー氏による『ラギー報告』によるもので、ISO26000 (特に策定過程後半) に大きな影響を与えた。

経済成長著しいアジアだが、それが果して人々の幸せと結びついているかという疑問が残る。危険な職場、劣悪な労働条件、児童労働の蔓延など改善すべき問題は多い。世界一長いバリューチェーンを持つと言われる日本企業だが、海外で伸びているバリューチェーンには必ずしも目が届いていないのが現状である。

バリューチェーン改善のために、法律だけではできない改善のツールとしてISO26000が活用されることを願っている。

最後に、国際労働財団(JILAF)による労働環境改善活動として、パキスタンの炭鉱、ラオスの木工、社会開発活動としてネパールの学校支援などをご紹介いただきました。

<質疑応答>

- ◎1: 児童労働をなくすにはまず貧困をなくさなければならないのではないかと。
- ④岩附: 児童労働の原因は貧困だけではないということを知ってほしい。家庭内の教育の優先順位の低さが原因という場合もある。ACE が働きかけ、親の意識が変わり、仕事をしていた娘が学校に行けるようになった例もある。人身売買の場合は難しいケースもあるが…。
- ◎2: ISO26000 は途上国の労働者の現状をどのくらい反映しているのか。
- ④熊谷: 当初途上国グループは ISO26000 のワーキンググループでは少数派だったが、5年の策定作業の間に参加する途上国が増えていき最終的には途上国と先進国の割合はほぼ2対1になった。とくにBRICSやVISTAの国々が熱心に参加して作った規格だと自分は考えている。
- ◎3: ACE はどのようにして、ガーナのカカオ生産者の収入向上を図っているのか。ACE の活動、ISO26000 中のフェアトレードについて教えてほしい。
- ④岩附: カカオは良い管理の下では生産性が上がるので管理法の訓練をおこなっている。フェアトレードカカオはガーナ政府の管理下にあり、認証を取ると政府のコントロールを受けることになる。
- ④熊谷: ISO26000 にはフェアトレード関係の人々も参加している(FLA アソシエーション)。フェアトレードに関する色々な意見が入っていることは確か。
- ◎4: ISO の国による受け取り方の違いについて。ISO26000 の申請費用は？
- ④熊谷: ISO9000を取っていないとヨーロッパのいくつかの国で通関に支障があり、日本では大騒ぎになったことがあり、また、その影響もありISO14000は日本が一番登録している。ISO26000は本体に認証メカニズムを持たずに、自主的なチェックポイントを置いている。これをどう使うかは各国の今後の国内規格化にも左右されると思う。
- ◎5: 生産性向上以外のカカオ農園の収入向上の方法は？ 児童労働撲滅のはたらきかけについて。
- ④岩附: 技術訓練以外にも相互扶助グループを作り回転講の仕組みを導入した。児童労働に関する企業の認識は私たちが活動を開始した頃に比べてやや向上していると思う。児童労働がなくなる仕組みを企業といっしょに考えていきたい。児童労働に関するラベルを作ることも考えている。
- ◎6: 村への働きかけその他にも何か？
- ④岩附: ACE が村に入ることで滞っていた行政サービスが果されるようになり、住民もやる気が出てきた。